



何よりも優先されるのは、人命だ！ 旅客が線路内に転落したまま、運転を継続！

2月29日早朝、警察から「中央線東京駅にて旅客転落があった」との申告を受け、1番線を運転見合わせ、後続列車は2番線到着へと変更しました。線路に降りて捜索も、転落した旅客の確認が出来ないことから運転を再開しました。再度警察が確認したところ、その後到着した2番線停車中の列車床下にいることが判明しましたが、ホームへの救済が行えないことからその列車発車後に旅客を救済しました。

転落した旅客を発見するまでの間、2番線には2本の列車が進入・進出しており、転落した旅客が線路内にいたにも関わらず運転再開したことは、旅客の命を奪いかねない事象です。また、2019年3月には八王子駅構内で架線の断線を車両の故障と判断して運転再開させたことにより、営業列車に切れた架線がぶつかるといふ併発事故が発生しています。安全の担保が取れていない中で運転再開させた判断は、架線断線時の併発事故と同様に、安全レベルが低下している職場現実の現れであると言わざるを得ません。

安全配慮義務を持つ鉄道会社として早期の運転再開に捉われず、安全の担保を確実に取ることが求められています。二度と同事象を発生させないために、緊急申し入れを行いました。

JTSU-E
八地申 第4号
3月6日申し入れ

安全を最大の価値基軸とした 鉄道輸送を創り出す緊急申し入れ

1. 運転再開指示までの経過と判断に至った根拠を明らかにすること。
2. 運転再開指示をする場合は、安全と人命を最優先にするため、必ず現場を確認すること。又、発生理由と事象の解決がされるまで運転再開しないこと。

命と安全を守るため、全組合員でたたかおう！